

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①授業参観、学校公開等を年間3回以上実施し、参加者の80%以上から「学校の様子がよくわかった」と評価を受けている。	○学校HPを充実させ、活動の様子がわかるようにしたり、学校見学の際に見てもらえるよう廊下の掲示物などを工夫し日頃の学習の様子がわかるようにする。 ○学部保護者や個別面談などで教育方針や教育内容について説明を行う。	B	A	B	○外部アンケートからは「様子がわかる」が90%以上であったが、学校HPでは学部によっては、学習の様子や行事などを更新することができていない時があった。	○保護者への情報発信は日々されているが、地域への発信については、まだ改善点があると思う。 ○地域との交流では、高等部の野菜販売はよい交流機会となっていると思う。回覧板を回す地域を広げられると思う。 ○紙ベースの情報発信も必要な場面は多々あると思う。学校日よりHPをうまく使い分けしながら情報発信ができていくとよいと思う。	○保護者が学校HP等を見て学校の様子を知りたいと思っているので、引き続き各学部ごとに活動の様子や学部行事を学校HPにあげていき、更新をすすめていく。
		②交流及び共同学習について、交流相手及び保護者の80%以上から、子どもたちによって有効な交流だったとの評価を受けている。	○児童生徒の実態に基づき、事前に学校間で十分な打ち合わせを行い、計画を立て交流を進める。 ○保護者が交流を意識できるように、学校通信や連絡ノートで活動の様子を伝える。		B	B	○居住地校交流を行っている保護者からは有意義な活動になっているとの回答が多く見られた。学校間交流は全児童生徒が行っているが、回答の中に「行っていないのでわからない」という回答が多かった。	○学校HPは保護者だけでなく藤特が気になって検索をすると思うのでより一層学部の様子をのせると生徒数の増加に繋がると思う。高等部の特色を農業とするなら、年間を通してどのようなことをしているのか等の紹介があると進路を検討している本人保護者もイメージしやすいと思う。 ○学校間、児童生徒間の交流の機会が充実していると思う。小中学部運動会の時には学生ボランティアが多く参加してよかった。 ○学校間交流を経験した生徒が運動会のボランティアに来ていた。体験後も交流する機会があり大変素晴らしいと思った。	○学校間交流での活動の様子や交流で得られた成果や学びについては、HPやお便りだけではなく、面談の機会を通して保護者に伝えていくようにする。
		③関係機関(相談支援員等)と連携した会議について、参加した保護者の80%以上から満足を得ている。	○保護者のニーズに応じた担当者会議に参画し、「連携会議をもつことで、子どもの課題が解消していない、関係機関同士のつながりが強固になっている」と感じられない」という意見もあった。		B	B	○会議は有意義であるとの回答は90%以上であったが、「連携会議をもつことで、子どもの課題が解消していない、関係機関同士のつながりが強固になっている」と感じられない」という意見もあった。		○支援会議が行われる際には、保護者がどのような願いや思いがあるのかを相談員と情報を共有しておく。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④教師が児童生徒と関わる様子を参観することによって、参考になったと評価をする来校者が80%以上いる。	○「ふじっこくらぶ」や学校参観等の来校者が教師と子どもたちの関わる様子や教材を参考にし地域で役立つようにする。		A	A	○「ふじっこくらぶ」参加者アンケートにおいて、4段階で最も高い評価をしていた割合が、100%であった。学校参観では、明確なアンケート調査を行っていないが、その後の入学希望等の状況から良い評価をされていると考えられる。		○学校参観においては、記録表に多くの情報を記入していただいている、個別面談に記録表を利用している。評価につながるような記入の部分をつくる工夫を考えたい。
		⑤地域の教師から使用している教材や支援方法について質問を受けた場合、理解できるよう説明ができるものが80%以上ある。	○普段の授業で教材研究を進めたり、教材や支援内容の有効性を確認し、改善に努めるようにする。		B	B	○それぞれの教師が教材の工夫をして実践で大いに活用していると考えられるが、自分の専門性について自信が持てていない部分があるのではないかとと思われる。		○専門性を高めるための研修や情報交換の機会を研修部との協力で充実させられるとよいと思われる。時間の制約もあるので、回覧などの活用で短時間で参考資料に目を通せる工夫も考えたい。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑥一人一人の学習状況に応じて、「個別の指導計画」「支援計画」を利用して、それぞれの児童生徒の学びの根拠を保護者に説明することができる。(目標値100%)	○児童生徒の実態を把握し、年間指導計画などを用いて、児童生徒の一人一人の学びの根拠を説明できる環境を整えていく。	A	A	A	○保護者アンケートからは保護者の願いが目標に反映されているという回答が90%以上あった。個別面談(年2回)や支援会議で保護者と話し合う機会を年に数回設けていることが評価に繋がったと思われる。	○児童生徒が落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られた。 ○きめ細やかな指導をしていると感じる。 ○教師の児童生徒への言葉かけについて、授業中や日常生活の中で否定的な言葉や心が折れてしまうような強い言葉を多用しないよう配慮をお願いしたい。	○年2回(目標作成時5月・1年間のまとめ2月)の保護者面談を通して、指導計画・支援計画の内容や目標の達成、次年度の課題等について、引き続き丁寧に話し合う。保護者の必要に応じて随時面談をおこない、目標や指導内容についてのすり合わせをおこなうようにする。
		⑦保護者は個別の指導計画の目標やその手立て、達成状況に満足している。(目標値100%)	○個別面談で保護者の意見を十分に聞き取り、共通理解を行い、目標や手立てを立てる。		A	A	○「満足している」という回答が80%以上あった。各学期の目標を設定した際には、保護者に目標を提示し保護者の意見を伺っていることが高評価につながったと思われる。		○授業や行事の準備で放課後に研修の時間を割くことが難しいため、1学期に実施する管理職の参観授業とR7年度の研修内容を関連させるようにする。
		⑧授業改善の検討会や計画訪問に関する研修内容について、教員の80%以上が満足している。	○授業前に指導案検討を行い、授業後にねらいに対する評価や手立てや児童生徒への関わり方等についての検討会を行うことで、日々の授業改善へと繋がるようにする。	B	B	B	○研修内容については80%以上の教員が満足しているが、授業準備や学級事務等で研修に割く時間の余裕がないという意見もあった。		
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨児童生徒の健康に関する情報を家庭と学校とで互いに連絡し合い行っている支援について保護者の80%以上が満足している。	○連絡ノートなどの健康に関する情報を元に、学校では検温や健康観察をまめにし、児童生徒の体調の変化に気づくようにする。		A	A	○保護者アンケートでは90%以上の保護者が児童生徒の健康管理について満足しているとの回答があった。日頃から細やかに体調の変化に注意していることが高評価につながったと思われる。	○学校生活にまず「安心安全」と願う中で保護者からのアンケートで安全配慮の評価が高いことは素晴らしいと思う。日頃から教員が子どもたちの体調や様子に気を配っているのが保護者に伝わっていることがわかる。	○引き続き、学校生活において児童生徒の体調の変化を丁寧におこなっていく。感染症が流行する時期には、地域や校内での感染状況を保護者に伝え、感染が広がらないように予防策をとれるようにする。
		⑩職員が日々の学校生活の中で学校整備への安全意識をもち、児童生徒に対して安全への配慮ができていく。(目標値100%)	○職員の安全に対する意識が高まるように、朝会連絡や職員会議などで啓発活動に努める。 ○緊急事態に対応する場面があったら、その都度マニュアルを見直し、対応内容に不足がなかったかなど検討を行う。	A	A	A	○保護者アンケートでは安全配慮ができていくとの回答が100%であった。火災や地震、不審者対応、災害時の引き渡し訓練を毎年実施していることが高評価につながったと思われる。職員については、外部講師による緊急対応訓練や刺股での対応訓練を実施していることで児童生徒の安全に対する意識が高まっていると思われる。		○校内で実施する各訓練については、教職員の訓練に対する意識を高め、どのような状況でも対応できるように訓練の内容を工夫し実施する。
		⑪いじめ発生防止に努め、いじめの解消率を100%とする。	○職員研修などを通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に関わる組織的・継続的な取組方法を、いじめへ対応する教師の資質向上を図る。	B	B	B	○いじめの件数は0にならなかったが、内容としては児童生徒どおしの他害の事例が多く、そのような事例であっても教員が見逃さず問題行動としてあげることができた。	○いじめについては教員の方に向けた未然に防ぐための研修等も必要と思うが、生徒にもこうした行為がいじめにあたることやSOSの出し方などを学習指導していくのも一つの方法だと思う。 ○「学校いじめ防止基本方針」の特に最後の「留意事項」にあることは引き続き日常の指導の中で伝えていって欲しい。	○引き続き、職員研修等を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に関わる組織的・継続的な取組方法など、いじめへ対応する意識を高めていく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑫児童生徒の各学部卒業後の姿や社会人となった姿を見通して、身につけたい力・高めたい力についての育成が行われていると保護者の80%以上が感じている。	○キャリア教育全体計画を元に、各段階に合わせたキャリア発達能力の目標を軸に置き、系統的な指導を行う。		B	B	○80%以上の保護者が将来の姿を見通した系統的な学習が進められていると回答をしている。意見として「担任と進路についての話が十分ではない」という内容が挙げられていたので、面談時の進路の内容については確認が必要である。	○キャリア教育については、中学部から企業への職場見学を取り入れるなど、早めにいろいろと見学の機会を準備させていて、生徒や保護者にとってよいことだと思う。 ○進路については、就職希望者の方が卒業時に就職が決まっていなかったとしても、卒業後に福祉サービスの利用を通して、チャレンジしていけるチャンスがあることを伝えていけるとよいと思う。 ○小中高等部と学部が揃っていることを活かし、保護者や子どもたちが見通しを立てられるような機会(校内見学や卒業生の経験談を聞く等)があると、不安解消になると思う。早くに進路を決めるといいう事ではなく、いろいろな選択肢があることを知るが大変だと思う。	○児童生徒の3年後を見据えた姿を個別面談とおして保護者と共に共有し、児童生徒の実態と発達段階に応じた指導内容や具体的な進路指導をおこなえるよう学部ごとに教員の資質を高めていく。
		⑬学校から発信される進路に関する情報提供や講演内容が、児童生徒の将来を考える上で役立っていると考える保護者が80%以上いる。	○進路日よりなどで、学部の進路計画や就業体験・体験学習先の紹介及び福祉サービス手続き等について情報提供を行う。 ○卒業生保護者の話を聞く会等の研修会を開催し、保護者が児童生徒の将来を考える具体的な機会を設ける。		B	B	○80%以上の保護者が役に立っていると回答している。施設見学に関しては「見学の回数について増やしてほしい」や「重度心身障害の施設見学希望」等の意見があった。保護者のニーズに合わせて講演内容や見学先を決めていけるとよい。		○中学部段階では高等部への進学(学校見学等)について中学1年生から計画的に実施する。高等部段階では現場実習や就労先、卒業後利用する施設について保護者のニーズにあわせて見学を計画的におこなっていく。